

講座名（専門科目名）	小児成育外科	教授氏名	奥山宏臣
学生への指導方針	リサーチマインドを持った小児外科医を育成することを目標として、診療に根ざした基礎研究、臨床研究を行う。		
学生に対する要望	小児外科医療に対する高い関心とモチベーション。		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3753 (Email) jim@pedsurg.med.osaka-u.ac.jp	担当者	田附裕子
その他出願にあたっての注意事項等			

(以下教室紹介)

大阪大学小児外科（小児成育外科）の研究理念および歴史について：

当科の歴史は昭和 27 年頃、同大学第一外科においてわが国小児外科のパイオニアである植田隆先生のヒルシュスプルング病の手術に始まります。昭和 35 年には当時最も困難とされていた食道閉鎖症手術において日大若林教授と同時期にわが国最初の成功を収めました。また、昭和 41 年に岡本英三先生（現兵庫医科大学名誉教授）が英国小児外科学会で発表されたヒルシュスプルング病における腸管壁内自律神経の発生起源に関する胎生学的研究は、今尚国際的に高く評価されています。そして昭和 57 年には、第一外科川島康生教授のご尽力により、診療科としての小児外科が誕生し、初代教授に岡田正先生が就任されました。岡田正教授のもとでは外科栄養を中心とした業績が積み重ねられ、平成元年には講座認可となり、教授以下スタッフ 8 名と全国でも有数の医局員を擁する教室に発展しました。平成 15 年 6 月には岡田正教授の後任として福澤正洋先生が 2 代目教授に就任され、小児がん、腸管不全、横隔膜ヘルニアといった難治性疾患の優れた臨床、基礎研究が行われてきました。そして平成 26 年 7 月には奥山宏臣先生が 3 代目教授に就任され、教室としても新たなスタートを切っております。

研究について：

当科では、常に患者さんとそのご家族に信頼される質の高い小児外科診療を提供すること、その成果を広く世界に発信すること、そして次世代を担うリサーチマインドを持った小児外科医を育成することを目標として、臨床に基づいた多くの研究テーマを中心とした基礎研究、臨床研究を行っております。

また、独自のテーマにとらわれず多施設共同研究や、関連病院セミナーなど、様々な研究を活発に行っております。発足当時より継続されている新生児外科、小児固形悪性腫瘍、小児胆道疾患、腸管不全、外科栄養、肝・生体肝移植・小腸移植を重点領域とした臨床研究に加え、現在では、内視鏡外科手術に代表される低侵襲治療、再生医療、胎児治療の研究を積極的に進めています。